



実現場に適用し実証へ

特殊改質アスでひび割れ抑制

大成ロテック

大成ロテックは8日、北海道を対象にアスファルトの品質規格を指す「北海道型SMA」に、耐流動性の優れた特殊改質アスファルトを使用し、舗装を、実現場に適用し写真

〓したと発表した。今後は、現場での実証を行うとともに、独自に開発した同アスファルトの全国展開を狙う。

北海道型SMAは、骨材と「ポリマー改質アスファルトⅡ型（改質Ⅱ型）」と呼ばれる結合材の粒度や施工方法など、北海道開発局が定めるアスファルトに関する規格。同規格で施工される

アスファルト舗装は、表層から1〜2センチ部分に隙間を設け、さらに内部に緻密な層を設けることで排水性を高めており、通常のアスファルト舗装で行う2層分の施工が1層分で済むため、手間のかからない工法となっている。

反面、改質Ⅱ型を使用した場合、低温時でのひび割れ抵抗性や凍結融解に対する耐久性で、十分な成果が得られないなどの課題を抱えていることから、同社では北海道型SMAに定めている改質Ⅱ型の代わりに、独自開発した特殊改質アスファルトを使用した室内試験を実施。その結果、アスファルト混合物の流動抵抗性を示す動的安定度が1^ミあたり4500回転と、従来のストレートアスファルトに比べて5倍超高く、北海道型SMAの規格を十分に満たしていることが判明した。また、特殊改質アスファルトの耐流動性が気温4℃でも40^ミ程度と大きい伸びが得られるなど、低温時でも変形性能や応力の緩和性を改善したアスファルトとなり、低温度下でのひび割れ抑制や骨材飛散、冷害などの機能低下を抑制できたという。

同社では、昨年11月から釧路外環状道路（一般国道38号線）、北海道横断自動車道の本別インターチェンジ（IC）と釧路西ICの2路線で一部区間を対象とした試験施工を実施し、有効性の確認を急ぐとともに、特殊改質アスファルトの全国展開を積極的に図る。